



武智 実 議員

消防と防災について

問

① 防火水槽の再点検、修繕をしてはどうか。
 ② 組合職員の採用は伊予市、松前町、砥部町で話し合い、理解し協力することが基本。一部が力を持つというのはどうか。

答

総務部長

① 消防水利は、消火栓や防火水槽のほか、プール等その他の水利を合わせて全体で588カ所である。これらの水利については、毎年消防署員及び消防団員による現地確認を行い、修繕等必要な対策を講じている。また、消火栓や防火水槽等の新



防火水槽

設については、地元からの要望があれば必要性等勘案の上対応している。
 ② 職員の採用は、現在、組合からの依頼を受けて各市町がそれぞれ行っている。また、人事異動については、消防長を中心にしては、消防長を中心に本部及び伊予、松前、砥部の各消防署の協議において、各署の判断で人員配置が決められている。現在、組合では組織の一元化を図るため、伊予消防等事務組合改革特別委員会を立ち上げ、適切な職員数といった問題を初め、さまざまな課題の

解決に向けて協議を行っている。

また、指令業務の一元化を図るため、通信指令センターの設置、運用に向けた準備を進めており、これによる各消防署の人員配置の変更等も必要となっており、組合において細部の検討を加えている最中である。

中山インターチェンジについて

問

インターチェンジの必要性、利用性を今こそ、協議すべきときだと考える。行政サイドを進めていくのか、民間サイドに任せるのか。

答

中村市長

中山インターチェンジの設置は、合併前から旧中山町の重要な地域課題である。合併後も知事陳情を初め、さまざまな機



接続予定箇所 (市道から高速本線を望む)

会において陳情、要望を重ねてきたが、遅々として進まなかった。

最近、県からも技術指導、側面的な支援をいただき、昨年度は中山インターチェンジ設置の可能性について検討を行った。その結果、費用対便益、いわゆるBバイCが0.93と採択基準の1.0に満たず、現実に向けてはまだまだクリアすべき課題も多いが、まずは大きな一歩が踏み出せたと考えている。

今後、専門コンサルタントの先行事例調査や、

協議会設置に対する支援などを受けながら、伊予市に見合った設置計画を構築し、地域住民の意識の醸成を図るための勉強会の組織を立ち上げていきたいと考えている。

◆ 議会を

傍聴しませんか◆

次回、9月定例会の日程は、広報「いよし」9月号、伊予市ホームページに掲載されますのでご参照ください。

■ 訂正

議会だより第28号 (平成24年5月1日発行) の4ページ、庁舎等建設特別委員会が本庁舎・文化ホール・図書館の建設場所を決定した理由の中で、「審議会」と表示しておりましたが、正しくは「総合計画建設事業検討委員会」の誤りでした。訂正しお詫びします。